

・高齢者をごみアドバイザーとして、ボランティアで地域に派遣してみてもどうか

Q. 今まではごみは汚いもの、廃棄するしかないものだと思っており、事業系ごみも多く負担も大きかった。

しかし資源ごみになると思い、お客さんの捨てた容器や空き缶を全て洗ってからまとめることにすると、ごみが宝の山に見えてきた。

高齢者をごみアドバイザーとして、ボランティアで地域に派遣してみてもどうか。集積場の美化になるとともに、作業の方の負担軽減にもなるのではないかと。

A. ご指摘のとおり、ごみとして捨てられているものの中には、資源として有効利用できるものが数多くあります。ご家庭から出される「資源・ごみ」の分別方法につきましては、「資源・ごみの分け方・出し方」の冊子を全戸に配布したほか、広報しながら、清掃事務所発行の『ごみ・リサイクル通信』など多くの媒体を利用して周知を行っております。

さらに地域からの要望に応じ、清掃事務所職員が出向いてごみの減量やリサイクルについて説明する出前講座も開催しております。

また、廃棄物減量等推進員に地域の代表となっただき、ごみの減量やリサイクルに関する区の施策や情報を積極的に伝えていただくことも行っております。

引き続き、地域の皆様とともに区の清掃事業を充実させてまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

(品川区清掃事務所)